



みどり

第463号

公益社団法人
徳島県環境技術センター

徳島市津田海岸町2-33
電話 (088) 636-1234(代)
FAX (088) 636-1122
発行責任者 吉村 正
編集者 原岡 艶 甲

浄化槽の日 第32回 全国浄化槽大会開催

平成30年10月1日、東京都千代田区のホテルグランドパレスで、第32回全国浄化槽大会が開催された。



これは、浄化槽の日を記念して、毎年、浄化槽関係19団体が構成する実行委員会が開催している事業であり、当日は全国各地から関係者約800名が参加、盛大に開催された。

まず最初に「浄化槽の日」実行委員会を代表して、全浄連の上田勝朗会長が開会の挨拶をした後、来賓が祝辞を述べ、浄化槽適正整備推進決議の採択が行われた。

その後、浄化槽に関する功労者の表彰が行われ、環境大臣表彰21名、国土交通省土地・建設産業局長表彰7名、環境省大臣官房環境再生・資源循環局長表彰16名が表彰され、徳島県関係では、徳島県環境保全協会

理事の大箸誠氏（有徳島衛生社代表取締役）が、環境大臣表彰を受賞した。

また、「浄化槽の日」の標語は、最優秀賞に福岡県の島田瑚子さん（中学1年生）の「浄化槽で守ろう僕たちの水環境 浄化槽で考えよう私たちの未来」が選ばれ、他3名が優秀賞に輝いた。式典終了後は、一般社団法人Water-n代表理事の奥田早希子氏が「生活者目線で考える水インフラ」と題して講演を行った。奥田氏は「生活者にとって大切なのは、下水道が浄化槽ではなく、生活排水処理サービスの持続である。しかし生活排水処理インフラを待ち受けるのは負のシナリオ、これを回避するには業界の枠にとらわれない〔ばかもの・よそもの・わかもの〕の常識を遙かに超えた発想が必要である。」と今後の業界のあり方を指摘していた。

その後行われた懇親会には、中川雅治環境大臣を始めとする多くの国会議員が駆けつけ、異口同音に「これからは浄化槽の時代、環境と財政にともに優しく地震に強い点をアピールし、積極的に推進したい。」と挨拶した。

東みよし町が PFI方式を導入 10年間で1,000基の浄化槽を整備

徳島県東みよし町は、平成31年度以降に設置される浄化槽を町が整備・運営する「市町村設置型」とした上で民間資金を活用するPFI方式を導入すると発表した。

となりの三好市では平成27年からすでにPFI方式で整備し効果をあげていることから、同町でも、一部整備済みの特定環境保全公共下水道事業（三好処理区）以外を浄化槽整備区域とし、市町村設置型浄化槽で整備する。

整備計画では、実施期間はH31（2019）年度～40（2029）年度までの10年間。

整備基数は1,000基とし、汚水処理人口普及率をH37（2025）年度までに81.1%（H29年3月末現在の処理率41.8%）まで引き上げる目標を掲げている。


また、PFI事業者が担当する業務は、設置業務、維持管理業務、使用料徴収業務で、11年目以降の事業終了後の対応については、事業の継続を含めて改めて検

討を行う。

- 募集及び選定方式は公募型プロポーザル方式で
- 今後のスケジュールは次のとおり
- H30年11月頃⇒募集要領等の公表
- H30年11月頃⇒説明会及び質問受付、回答
- H30年11月頃⇒応募受付
- H31年1月末頃⇒提案書の受付締切
- H31年2月末頃⇒提案書の審査・優先交渉権者の選定
- H31年2月末頃⇒審査結果発表
- H31年2月末頃⇒基本協定締結
- H31年3月末頃⇒業務契約締結（議会の議決）
- H31年4月1日⇒設置及び維持管理、使用料徴収業務開始
- H41年3月31日⇒事業完了

東みよし町は、四国のほぼ中央部に位置し、四国4県の各県都まで1時間余りといった地理的条件を有する町です。

町の中央部を吉野川が雄大に流れ、北には阿讃山脈、南には四国山地の急峻な山々を抱き、豊かな水と緑に恵まれた地域です。



人口 約14,486人 (H30.9.1現在)

世帯数 6,290戸 (H30.9.1現在)

合併浄化槽設置数 3,220基 (H30.3.1現在)

全浄連四国地区協議会 合同役員会 開催

全浄連四国地区協議会は、9月27日香川県JRホテルクレメント高松にて合同役員会を開催した。



この合同役員会は、全浄連の機能保証委員会で協議してきた「浄化槽機能保証制度にかかる問題点の改善や制度の見直し」について、現在もまだ結論に至っていないため、全国の各ブロック単位で意見をまとめ、委員会に付託することを目的として、急遽開催されたものである。

会議には四国四県の会長及び関係者16名が参加し、徳島からは吉村会長をはじめ計3名が出席した。

山条協議会会長（香川県）の開会挨拶のあと議事に入った。

審議事項・協議結果は以下の通りである。

第1号議案 浄化槽機能保証制度について

川崎理事（高知県）が全浄連機能保証委員会の議事報告をされたあと、全浄連から提出された各質問事項について、四国ブロックの意見を次のようにまとめた。

①機能保証の適用範囲について

適用範囲の拡大は賛成であるが、予算を十分精査した上で決定すべきであるとした。

②機能保証登録料の4業種負担について

一部に賛成意見はあるものの四国地区としては賛同できないとした。

その他、全浄連に対し、「保証登録料の用途についての透明性を図ること」、「保証登録申請件数が都道府県レベルでかなりのばらつきがある（四国はほぼ設置申請数に対応した件数）ため、全数保証対象とするよう徹底を図ること」について要望することを決定した。

第2号議案 その他として、高知県から、浄化槽の申請手続等について直面している課題があり、各県の取扱や今後の対応について、情報提供を求められ、各県は現状を報告した。

以上、全ての議案の審議を行い、合同役員会議は午後4時50分に閉会した。

30年度設備士試験

合格者174名 合格率21.7%で 合格者大幅に減少

平成30年9月11日、公益財団法人日本環境整備教育センターは、7月8日(日)に全国5ヶ所（宮城県、東京都、愛知県、大阪府、福岡県）で実施した浄化槽設備士試験の結果を発表した。

それによると、本年度の受験申請者数は985人（昨年度1,048人）でそのうち811人（同940人）が受験し受験率は82.3%（同89.7%）であった。

合格者は174人（同335人）で合格率は21.7%（同35.6%）となった。

本年度は試験日が丁度、6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に発生した記録的な集中豪雨（西日本豪雨）と重なり、福岡及び大阪会場を中心に受験者数が大幅に減少。さらに問題の難易度が高かったこともあり、最終的には合格者171人で、昨年対比で△161人（48%減）まで落ち込んだ。

<試験会場別の合格者数は次のとおり>

- 宮城会場……20人（昨年度60人）△40人
 - 東京会場……58人（ 〃 75人）△17人
 - 愛知会場……33人（ 〃 53人）△20人
 - 大阪会場……24人（ 〃 65人）△41人
 - 福岡会場……39人（ 〃 82人）△43人
- 計174人

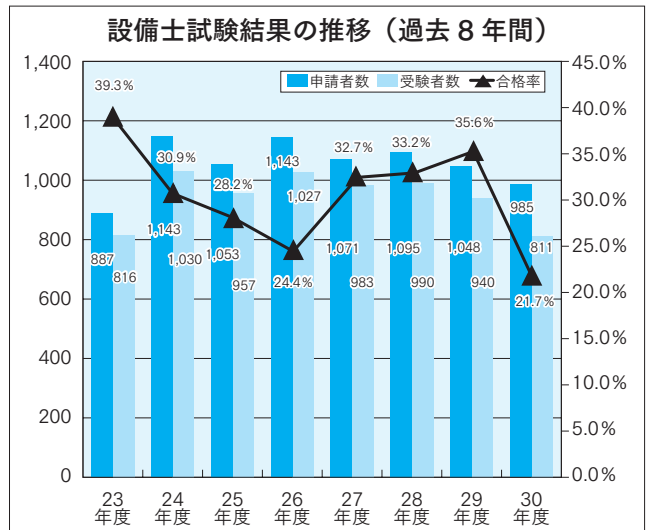
<参考>

平成30年3月末現在における徳島県の浄化槽設備士数は912名で、そのうち現役世代は313名（全体の34%）であり、今後、徳島県において汚水処理対策として、経済的かつ即効性のある浄化槽を中心に推進する上で、現役世代の設備士減少は非常に危惧される問題である。

◇徳島県の浄化槽設備士数（年齢別資格者数）

20代………	2名（0.2%）
30代………	36名（3.9%）
40代………	130名（14.3%）
50代………	145名（15.9%）
60代以上……	599名（65.7%）
合計	912名（平成30年3月末現在）

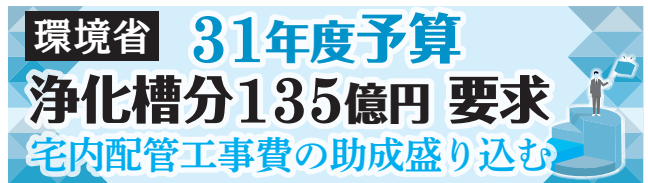
現役34%





9月11日・12日の両日、公益財団法人鹿児島県環境保全協会の原常務理事、牧事務局長ら役職員4名が来県、1日目は県環境技術センターが実施しているテレホンアポイントによる法定検査の受検勧奨業務について視察した。センターは、川人専務理事、空保事務局次長ら職員6名が対応、まずはじめに淵本業務統括係長が、導入の経緯やこれまでの実績・効果、勤務形態等についてパワーポイントの資料を基に説明、その後実際に女性アポイントが電話にて受検勧奨を行っている現場を見学した。また、逆にセンター側からは、鹿児島県での未収金回収に係る措置や法定検査業務の精度管理等について質問、原常務理事から詳細な説明を受け、法定検査本来の目的である水質改善への取り組み（浄化槽の信頼性確保）の重要性を再認識することが出来た。

2日目は、センターの川原業務支援室長の案内で、三好市での市町村型PFI事業を視察。まずPFI事業の実施者である(株)三好浄化槽ネットワークの田原氏から、これまでの経緯やSPC設立までの準備、事業開始後の実績や住民の反応、事業の推進策、行政との関係などについて説明を受けた。続いて、三好市役所の環境課を訪問、担当の宮岡課長から、市町村型PFI事業の導入に至るまでの経緯や職員の業務負担、単独→合併転換の課題や市の支援（広報等）について説明を受けた。原常務理事は、此所で教えてもらったことを活かし、鹿児島県でも市町村型浄化槽の普及に取り組みたいと語っていた。



環境省は、平成31年度の循環型社会形成推進交付金の浄化槽分の予算概要要求に、110億円（前年対比30.6%増）を計上した。関連する二酸化炭素排出抑制事業費等補助金（浄化槽分）は20億円（同25%増）地球環境局計上分は5億円（新規）で合計135億円の要求額となった。

浄化槽関連の事業の内容で新たに盛り込まれたのは、

①単独転換に伴う宅内配管工事費の助成

浄化槽整備区域に於いて単独浄化槽を合併浄化槽へ転換する場合に宅内配管工事費用に助成を行う。

従来の単独浄化槽撤去費も継続する。

②共同浄化槽設置及び管渠への助成

空き地等の公用地を活用した共同浄化槽の整備及び流入管に助成を行う。

③浄化槽台帳の導入推進事業への助成

都道府県、市町村に対し、行政、検査機関、民間業者が有する情報を統合整理した浄化槽台帳整備への助成など。

また、見直しされたのは、

④環境配慮・防災町づくり浄化槽整備推進事業における環境配慮の性能要件見直し

環境配慮の性能要件としてより高い省エネ機能を求める。

⑤公的施設、防災拠点単独浄化槽集中転換事業の補助要件の緩和及び拡大

自治体等が所有する単独浄化槽の合併転換を推進する事業は、複数設置の要件を緩和し1基からでも整備可能とし、災害時の浄化槽の水不足を避けるため、防災拠点の貯水槽等も補助対象とした。

さらに省エネ型中・大型浄化槽システム導入推進事業は、「省エネ型浄化槽システム推進事業」に名称を変更し、旧構造基準型のみとしていた本体交換の対象を、新構造基準（曝気方式）にも広げ20億円に増額した。

その他、浄化槽整備推進にかかる行政経費として、浄化槽整備促進・適正管理調査費（PFI方式の活用や浄化槽の把握、法定検査の受検率向上等についての情報収集を行う事業）を4,200万円（前年度対比43%増）に増額するなど、従来にない大幅な刷新が図られた。

(株)とくしま建築住宅センターからのお知らせ

皆様方のご支援を賜り業務を進めて参りましたが、このたび確認検査の業務区域を拡張いたしました。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

変更後の業務区域：徳島県の全域

追加した区域：美馬市、三好市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、神山町、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町、つるぎ町、東みよし町

業務開始年月日：平成30年10月1日

(株)とくしま建築住宅センター

〒771-0134

徳島市川内町平石住吉 209 番地 5

TEL 088-665-6577

FAX 088-665-6618

三好市で
ウェイクボード世界大会開催
 ～市町村設置型浄化槽をPR～
浄化槽カットモデル展示

水上スポーツ「ウェイクボード」の世界選手権が8月30日から9月2日までの4日間、三好市池田町の池田ダム湖で開催された。アジアでの世界選手権は初めての開催となり、欧米やアジア、アフリカなど34カ国から選手147人が集結。期間中の観戦者は約1万1千人に上った。

大会スケジュールは、1、2日目がアマチュア部門、3、4日目がプロ部門で開催された。

本大会には、(株)三好浄化槽ネットワーク（三好市浄化槽市町村整備推進事業のPFI業者）も協賛企業として参加し、PFI事業のPRや浄化槽に関するアンケートを行った。また、フジクリーンは浄化槽のカットモデルとCA型浄化槽のミニチュアを展示した。センターからは、空保次長、山畑検査員ら4名が、持ち込んだパネルで法制度の説明や転換促進など水環境保全の必要性と浄化槽促進の啓発を行った。

また、(株)三好浄化槽ネットワークは会場内に浄化槽を設置し、飲食コーナー等の雑排水を適正に処理するなど、水環境保全の面で大会の運営に貢献した。

さて、ウェイクボード競技は、モーターボートがつくり出す波に巧みに乗り、高いジャンプから横回転と縦回転や後方宙返りなどを組み合わせたダイナミックな技を披露するスポーツである。プロ部門では、次々

に魅せる華麗な技に観客の大きな歓声が上がった。アマチュア部門では、地元の小学生チーム「イケダコイレブン」の10人が水面に孤を描き、堂々とした滑りやジャンプを披露し、選手権を華やかに彩った。

4日間にわたる選手権は9月2日、組織委員会から大絶賛を受け盛況のうちに幕を閉じた。大会副会長の黒川三好市長が、この大会を機に「イケダコ」の名を世界に知らしめることを宣言し大会を締めくくった。



水 質 計 量 便 り

～フィンランド発、環境配慮で食通注目～

やっと秋らしい季節がやってきました。紅葉そして食欲の秋です。栗を使った新製品のお菓子など、つつい手がでてしまいますね。

ところで、フィンランドで美味！と大きな話題になっている食べ物をご存じでしょうか？答えは、大手食品メーカーが新発売した、虫を材料に使ったパンです。乾燥コオロギの粉が入っていて、小麦粉ベースのパン1個に70匹分のコオロギの粉を混ぜ込んでいるそうです。コオロギパンは11店のインスタアベカリーで販売を始め、特に都市部で人気を呼び、現在は全57店に拡大とか。

実は、昆虫は、2050年には人口が98億人になるといわれる世界の食糧難に対応できる食材として、国連食糧農業機関（FAO）が普及に取り組んでいるそうです。

現在、昆虫は全世界で1,900種以上が食用とされ、生産において環境負荷が少なく、栄養価が高い食材だといわれています。

家畜牛肉1キロを生産するには8キロの飼料が必要ですが、昆虫肉は同2キロですみ、より低資本で生産が可能。また多くの昆虫類は、タンパク質や良質の脂肪を多く含み、カルシウム、鉄分などが豊富というわけです。

また、フィンランドの意識調査によれば、回答者の70%が昆虫食に興味があると回答したといい、さらにEUで昆虫が新規食品として規定され、全域で流通が可能になったことも人気に拍車をかけているようです。

その他、コオロギ商品はパスタやグラノーラ、チョコレートなども人気だそうです。

これらは、環境問題に関心が高い人や新しい食材に目がない食通に人気が高く、そうしたニーズを反映してか、レストランをはじめ様々な飲食店で虫を使い始めているそうです。

もしかすると日本でもこぞって虫を食べる日が来るかもしれませんね。

by koizumi

事務局だより

法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。

○11条検査

日程：平成30年11月12日～平成30年12月14日
 地区：徳島市・鳴門市・吉野川市・阿波市・藍住町・北島町・石井町・松茂町・板野町・上板町・神山町・佐那河内村

○7条検査

日程：平成30年11月12日～平成30年12月14日
 地区：徳島市・藍住町・北島町・石井町・上板町・神山町・佐那河内村

○那賀町検査(らくらくあんしん協議会)

日程：平成30年11月12日～平成30年12月14日
 地区：那賀町全域

○神山町検査(神山町きれいな水づくり協議会)

日程：平成30年11月12日～平成30年12月14日
 地区：神山町全域

